

# なにわ たいむず

No.118



01 news / 管理者うるしまのヨモヤマハナシ

02 お母さんの日々あれこれ

03 ブラマエダノアトリエナニワ

04 Case Book

06 ジムインこいけのなんでも日記  
サポータークラブ

07 スタッフ紹介



# 創立記念食を実施しました！

12月2日、ライフサポートになわで35周年の創立記念食が振舞われました。今年は初めて、「好きなメニューを選べる」取り組みを実施しました！

## 【洋風コース】

ステーキ シーザーサラダ 天ぷら  
赤だし イチゴ ごはん(またはパン)

## 【和風コース】

お刺身盛り合わせ おひたし  
(天ぷら以下は洋風コースと共通)

これらに加えて、スイーツや飲み物も好きなものを選んで頂きました！

また、ご家族にもお声掛けし、家族団らんの時間を過ごして頂きました。お刺身、ステーキ、楽しんでいただけたのではないかと思います。恒例行事となっている創立記念食、これからも大切にしていきたいと思っています。  
(小池)



# NEWS

## なにわフェスタ2025

10月25日、なにわフェスタ2025を開催しました。当日は午後から雨の予報でしたが、何とか天気ももってくれました！

今年は、利用者さん、利用者さんのご家族、スタッフ、スタッフの家族が参加し、みんなで150名程のお祭りとなりました。ポテト、ホットサンド、ポップコーン...どれもホカホカでおいしかったです！景品釣り、射的、くじ引き、利用者さんもお子さんたちも楽しんでいました。利用者さんご家族、テントの下でゆったりとした時間を過ごしてられるのが印象的でした。

今回は準備段階から利用者さんのご家族が運営本部として関わってください、たくさんのご準備、また当日の対応を下さいました。心からお礼申し上げます。ご参加くださったみなさま、本当にありがとうございました！  
(小池)



# 管理者のこころ

## 実践事例発表会の意図

2026年になりました。年々時間の流れが早くなり、焦りばかり感じている今日の頃です。次年度の計画を検討する時期ですが、今年度やり切れなかったことばかりが頭を巡ります。気持ちを切り替えなくては...

今年度を振り返りながら気づいたのですが、この数年で初めてコロナやインフルなどによる施設内での集団感染がゼロでした。世間的には大流行しており、利用者さんも数名罹患した人はいりますが、事業所全体で感染が広がることはありませんでした。我々が順応できてきたと捉えたいところですが、集団感染に至らなかったおかげで、ずいぶん負担が減ったことを実感します。とはいえ、これまでのイレギュラーな対応に心身ともに疲れ、まだ癒されていないスタッフも大勢います。時間をかけながら、徐々に回復できるといいなと思います。

2月から、『なにわの里オープンセミナー実践事例発表会』をYouTubeで公開しています。コロナ禍前までは毎年会場を借りて、現場の実践を発表する場を設けていました。主なものとして、スタッフの育成の場と位置付けているのですが、発表者の負担が大きいためこの数年は控えていました。この事例発表会、発表者が緊張するのは当然ながら、発表内容を事前にチェックし、ゴーサインを出した自分もとても緊張します。自己開示に近い心境なんだろうなと考えています。

みなさんは普段、自己開示をすることはありますか？無意識にしている方も多いいと思いますが、一定の信頼関係がないと自分のことを話すのって勇気がいりますよね。それが不特定多数となるとハードルは高くなります。でも、自己開示をすることで相手とより深いコミュニケーションを取ることができ、フィードバックをもらうことで自己理解が深まります。この実践事例発表会は、内外の人になわの里のことを知ってもらう機会でもあり、自分たちが自分たちのことをより深く理解する機会であると感じています。時間をかけて準備をし、勇気を振り絞って発表会を開催しました。ご興味のある方はぜひご覧いただき、温かいフィードバックをお願いします！

ヨモヤマバタシ





## ✿ 漢字博士 ✿

小さい頃の夢は特になかったのですが、漢字博士と呼ばれるくらい、漢字が好きでした♪読み書きはもちろん、こととへんも知っているくらいに好きでした(笑)

英語も好きです。話すときに、英語と日本語がバラバラになることもありました。単語が英語のフレーズになることもあったり…。

今よりも、小さい頃の方が、漢字も英語もすきだったと思います 😊

これからも笑顔で元気に自分らしく  
過ごしてほしいと思っています。

by 母



お母さんが日々感じていることを  
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

### 担当者コメント欄

ご本人の知的好奇心が旺盛であることや、ご家族の本人に対する愛情がよく伝わってくる素敵なお話でした。他にも体を動かす事や、ゲームが好きで、それに関する仕事がしたいと夢を持たれる方などもおられますが、この世の中が夢であふれる世界であり続けると良いなと心より思います。

(尾上/高木)



## 今回のテーマ

子供の頃の夢  
(もしくは今の夢)





## 理事長マエダが、ブラブラするコーナーです

責任が重い、やりがいがある、儲からない仕事」とのこと、私たちに似ている?と感ずるお話でした。

今回も、超コンパクトにまとめさせていただきました。田中さん曰く「自由度が高い、時間がかかる、

田中さん「ずっと、一人ひとりに合わせて、個別にマジメに支援に取り組んでおられる施設だな」と感

マエダ「自分も強く同意します(笑)。最後になにわの里スタッフにエールなどあれば」

だと思っています」

田中さん「自分も強く同意します(笑)。最後になにわの里スタッフにエールなどあれば」

マエダ「障害者施設の設計トレンドみたいなものはあるでしょうか」

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

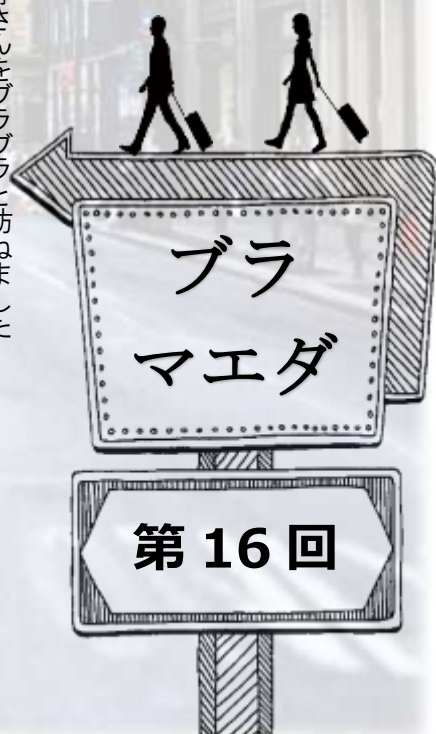
田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示

田中さん「大きな流れとしては、より『家庭的で地域に開かれた』というご依頼が増えています。国が示



(株)山田総合設計  
田中 千尋さん



## アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や  
支援ツールを紹介するコーナー

### 【ツールの説明】

- ・ Aさんの食事場面で使用しています。
- ・ Aさんが自分の食事を他利用者さんのものと間違えないように、目立つ赤色のランチョンマットを目印にしています。

### 【ツールのメリット】

- ・ トレーの下に敷くだけ!
- ・ とても目立つ赤色で、Aさんだけでなく、他利用者さんも間違えないようになりました!

## 『 食事を一目でわかりやすく 』

以前は自分のものでなくても、  
トレーが置いてあれば、その席  
に着いておられました。が・・・



Before

After



今は赤色のランチョンマットがあるト  
レーの席に座れるようになりました!





なにわの里 支援の実践紹介

# Case book



スケジュール設定の見直しについて

グループホーム支援係 久我健太



## 【はじめに】

私たちや利用者さんが日々生活する中で、一日の予定がわからないと不安になる人が多いと思います。利用者さん一人ひとりで理解の仕方が異なりますので、その人に合った予定の伝え方をする必要があります。また、予定の内容や伝え方が本人にとってどうなのか、定期的に振り返ることも重要です。

今回はスケジュールに関しての事例の紹介です。

## 【Aさんの紹介】

Aさんは、なにわの里のグループホームを利用している、知的障害のある65歳男性の方です。お話をすることや手紙を書くことが好きな方です。いつも腕時計をしており、時間を意識して行動することができます。一日の終わりに飲むコーヒーを楽しみにしています。

Aさんは時計と文字の理解があるため、写真①のようなスケジュールを使っていました。

Aさん 平日の予定	
7:00	ごはん・はみがき
8:45	さぎょう
18:15	ごはん・はみがき
18:50	お風呂・せんたく
20:05	きげんのじゅんぴ
20:30	<すり>

写真① 変更前のスケジュール

## 【今回の支援を行った理由】

写真①の変更前のスケジュールは、時間通りに活動に移れないとAさんの好きなコーヒーが貰えない設定になっており、支援者側が組んだ予定通りにAさんを動かすための要素が強いものになっていることに気付きました。そのため、チームで話し合い、スケジュール設定を見直すことにしました。

## 【変更前のスケジュールの使い方】

変更前のスケジュールは以下のような設定でした。

### <Aさんがすること>

- ・ 活動時間になると活動名の書かれたマグネットを取ってスタッフに渡す
- ・ スタッフからシールを受け取り、用紙に貼る
- ・ シールのポイントがすべて貯まれば、一日の終わりにコーヒーがもらえる

### <スタッフがすること>

- ・ Aさんからマグネットを受け取り、時間通りに活動に移れていた場合シールを渡す
- ・ 一日の終わりに、用紙にシールが全て貯まっていることを確認してからコーヒーを提供する

## 【スケジュール設定を見直したポイント】

本人がスケジュールを見て意欲的に活動に移れるように、以下のポイントを見直しました。

- ・ ご飯や出勤、ドライブや買い物など本人が気にしている活動や、都合上時間を決めないといけない活動だけ時間を明記し、5分間の時間の幅を設けた（例：「7:40 ごはん」なら 7:40～45 のあいだに開始すれば OK）。
- ・ 本人が楽しみにしているコーヒーは、以前のように全ての活動に移れていなくても、時間になれば提供することで、コーヒーが飲めることを保障した。
- ・ スケジュールの一部は本人が選択できるようにした（ステッパー or 踏み台）。
- ・ 活動の最後に、どれだけ活動に移れたかについて、スタッフとその日の振り返りを行った。
- ・ スケジュールを持ち運べるようにして、活動に移る度にスタッフが確認できるようにした。

写真① 変更前のスケジュール

写真② 変更後のスケジュール

## 【本人の様子】

スケジュールの見直し直後は、スケジュールを持ち運ぶことを忘れたり、時間になっても活動に移ることができなかつたりすることがありましたが、日を追うごとに設定どおりにスケジュールを扱うことができるようになりました。一日の終わりのコーヒーは毎回嬉しそうに飲んでいました。選択の活動ではステッパーを選んでいました。

## 【まとめ】

今回スケジュールの設定を変更しても A さんに混乱がなかったのは、変更前のスケジュールを使う中である程度行動が習慣化されていたおかげかなと考えています。今回の見直しで A さんとスタッフのやり取りも円滑になり、お互いの負担が減ったのは良かったところだと思います。そして、ご本人の好きなコーヒーを保障することで、毎日意欲的に活動をこなすことができていると考えます。最後に、今回の支援を通してスケジュールの設定を見直すことの大切さを経験することができました。

### 「訃報のお知らせ」

今回の事例の A さんですが、急な体調不良により、1 月 11 日に逝去されました。スタッフ一同、安らかなご永眠をお祈りいたします。

なにわの里 一同

「存在効用」のある人

「小池さんの丁寧さが雰囲気として出てくるような仕事ができていると思う。にじみ出てくる、というか……」

『組織の中には利用効用のある人と、存在効用のある人がいる。存在効用のある人になりなさい。利用効用のある人とは「仕事のできる人」のこと。存在効用のある人とは「その人がいるだけで組織がまとまり、同僚が”あの人のためならがんばろう”と思えたりする人」のこと。そうなるのは大変なんだ』（読売新聞 2009年9月7日）

30代半ば頃から、どうも自分に自信が持てず、自分は職業人として何を積み上げてきたのだろうなあ…、と悩むことも多くありました。ただ、知識や技術、つまりは「できること」を積み上げるだけの変化や成長ではないのだな、今やれることを丁寧につこつやりととか、相手のことを考えて行動するとか、そういったことを地道に続けることも大切なことだと上司との面談の中で改めて感じました。それは、自分の「存在効用」を高めることにつながっているのではないかと思います。

利用効用の高い人というのも、組織には必要だと思えます。ただ、それだけ・そればかりになってしまうと、どうしても目的的なやりとりが多くな  
り、誰かが窮屈な思いをしたり、全体のペースが早くなり過ぎたりするの  
かな、と感じます。今パツと思ひ浮かべても、「あの人の存在効用はすごいな  
あ」と思えるスタッフがいます。「ちよつとたいへんだけど、あの人のためなら  
いっちょやってみるか」「あの人に声をかけてもらえて、ほっとしたな」そん  
なやりとりをしていくれている方に、改めて感謝の気持ちを抱きました。こ  
れからも、日々の仕事を丁寧に積み重ねながら、自分なりの「存在効用」を  
少しずつ育てていけたらと思います。

井上 愛子	小畑 貴央	宮村 昭弘	高橋 八州子	合田 裕章	小島 純子	森 克雄	三木 由貴男
馬場 幸枝	谷野 恵津子	山下 孝子	田中 賢一	太田 稔	井上 政二	小島 武郎	井谷 有希子
小畑 拡嗣	金田 珠江	亀井 幸子	神田 泰寛	車谷 清里	小島 俊郎	坂本 美弥	佐藤 太志
千原 光平	寺田 誠一	中谷 弘子	濱田 由紀子	馬場 勝巳	藤原 昌	松尾 保隆	松田 由紀
松原 史敏	光田 英弘	宮崎 正己	森 央樹	安井 喜誉嗣	渡邊 哲理	赤松 福枝	井形 正信
井田 喜美代	井田 博	生駒 ひとみ	佐々木 雅美	坪田 裕子	中川 龍樹	長橋 徹也	延田 輝
三好 智行	村松 克己	北浦 康司	三木 知子	湯淺 珠樹	荒井 陸	内田 修子	湯里 一夫
本部 文雄	川島 白鶴						



# STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— 2024年4月にOさんが入職してもうすぐ2年になります。なにわの里に入ったきっかけは？

「弟のことをもっと知りたい」と思い、障害者福祉の仕事を考えていました。学校のパソコンで、いくつかの法人さんの求人情報を見たのですが、何と云うか、なにわの里の雰囲気がやさしいというか、やわらかいような印象を受けて、いいなあと思いました。それで見学に行ったのがきっかけです。

— 入職してみて、スタッフの雰囲気はどうでしたか？

入職3日目くらいのときに、熱っぽいときがあったのですが、「しんどいです」となかなか言えませんでした。でも、私の顔を見た先輩スタッフが「しんどいinchau?」と声をかけてくれて。熱を測ると、やはりかなりあったのですが、上司が家まで車で送ってくれました。なにわの里っていい職場だな、と感じました。

— 入職してから、一番うれしかったことはどんなことですか？

今年度の目標として、「ご家族に『Oさんが担当でよかった』と思ってもらえるスタッフになる」ということを考えていました。担当をもたせていただいているSさんのご家族あてに、毎月Sさんの写真をお送りしているのですが、ご家族が「ありがとう、とってもうれしいです」とお電話をくださるんです。そのことがとってもうれしかったです。

— 2年間の中で、自分自身が変わったかなと思うところはどんなことですか？

今年から担当を持たせていただく中で、支援のことや利用者さんの生活のことをもう一歩深く考えるようになったと思います。入った頃だったら「こんな支援をしてんねんな」と思うだけだったのが、「なんでこうしているんだろう」と考えたり、「自分はこの方がいいと思うんです」と意見が言えたり。また、利用者さんの生活用品、例えば靴や服を買う時でも、サイズであったり、色であったり、いろいろ考えます。普段接していても、今日はちょっと元気がないのかなとか、細かなことにも気づくようになったと思います。

あと、入った頃はなかなか利用者さんの伝えたいことがわからなかったし、こちらのことも伝えられなかったけど、少しずつわかってきたことがあるのかなと感じます。最初はこちらが「何をされるんだろう」とちょっとびびってしまっていたと思うのですが、きっとそういうのが利用者さんに伝わっていたんでしょね。少しずつ利用者さんのことがわかり、関係もできてきたことがうれしいです。

第118号

2026年2月20日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail [naniwa@naniwanosato.jp](mailto:naniwa@naniwanosato.jp)

HP <http://naniwanosato.jp>

